

2024年3月期 中間決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社デンタス

上場取引所

東

コード番号 6174

URL <https://www.dentas.jp/>

代表者(役職名) 代表取締役

(氏名) 河野恭佑

問合せ先責任者(役職名) 取締役管理部長

(氏名) 大崎 隆

(TEL) (088) 657-3115

発行者情報提出予定日 2023年12月26日

配当支払開始予定日

—

中間決算補足説明資料作成の有無 : 無

中間決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期中間期の連結業績(2023年4月1日~2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期中間期	386	△15.4	△36	—	△32	—	△31	—
2023年3月期中間期	456	148.0	△16	—	△5	—	△6	—

(注) 中間包括利益 2024年3月期中間期 △33百万円(-%) 2023年3月期中間期 △6百万円(-%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期中間期	△77.09	—
2023年3月期中間期	△16.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期中間期	599	29	0.8
2023年3月期	650	63	5.6

(参考) 自己資本 2024年3月期中間期 4百万円 2023年3月期 36百万円

2. 配当の状況

	年間配当金		
	中間期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0 00	0 00
2024年3月期	—		
2024年3月期(予想)		0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,117	24.5	7	—	6	—	5	—	14.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間連結会計期間における重要な子会社の異動 : 有・無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有・無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有・無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有・無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有・無
- ④ 修正再表示 : 有・無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期中間期	406,666株	2023年3月期	406,666株
② 期末自己株式数	2024年3月期中間期	一株	2022年3月期	一株
③ 期中平均株式数	2024年3月期中間期	406,666株	2023年3月期中間期	406,666株

※ 中間決算短信は、公認会計士又は監査法人の中間監査の対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、中間決算短信（添付資料）4ページの「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績の概況	2
(2) 財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等について	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	8
(3) 中間連結株主資本等変動計算書	10
(4) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 中間連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績の概況

当中間連結会計期間（2023年4月1日～2023年9月30日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限が全世界的に解除されるとともに円安を背景としたインバウンド市場の需要回復により、新型コロナウイルス感染症拡大前と同様の水準にまで景気が回復しつつあります。しかしその一方で、ロシアとウクライナ情勢等の長期化による世界的な経済活動の停滞と原油・原材料価格の高騰、米国・欧米諸国の急速な金融引き締めに対し先進国で唯一金融緩和を維持する日本の金融不安、及び中国・台湾問題の地政学リスクの高まり等により世界情勢は不安定となり、景気の先行きは依然不透明な状況となっております。

また、当社グループが事業を営む歯科技工業界においても、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響は徐々に回復の兆しがみられているものの、原材料価格の高騰等により厳しい状況が続いております。

こうした事業環境のもと、当社グループは引き続き経営体制の見直しと共に、赤字の早期解消に向けて経費の全面的な見直し、歯科技工現場における原価圧縮施策等の経営合理化を行うとともに、新規事業となる歯科関連ビジネスの創出を進め、歯科技工業界及び歯科業界の発展に寄与すべく努めてまいりました。

このような状況下、当中間連結会計期間における売上高は386,716千円（前年同期比15.4%減）、営業損失は36,674千円（前中間連結会計期間は営業損失16,821千円）、経常損失は32,703千円（前中間連結会計期間は経常損失5,735千円）、親会社株主に帰属する中間純損失は31,349千円（前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する中間純損失6,627千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は以下のとおりであります。

（歯科技工関連事業）

当セグメントの売上高は137,968千円（前年同期比24.3%減）、セグメント損失は14,348千円（前中間連結会計期間はセグメント利益1,309千円）となりました。

・歯科技工

主な売上である歯科技工物の製作については、新型コロナウイルス感染症の影響による受注の減少も徐々に回復しつつあるものの、競争激化による受注価格の低下により、当中間連結会計期間における売上高は96,314千円（前年同期比24.7%減）となりました。

・歯科技工商品・製品販売

歯科技工事業同様、新型コロナウイルス感染症の影響が回復するにつれ、販売先である歯科技工所からの歯科技工商品及び製品の受注が徐々に増加傾向にあるものの、一部商品について原材料価格の高騰による値上がり分を販売価格へ転嫁することが難しかったため、当中間連結会計期間における売上高は26,687千円（前年同期比2.4%減）となりました。

・歯科関連商品販売

AED他、歯科関連商品の販売減少により、当中間連結会計期間における売上高は14,967千円（前年同期比27.0%減）となりました。

（オーラルケア製品製造販売事業）

子会社のアイオニック株式会社における、イオン歯ブラシを主とするオーラルケア製品の販売減少により、当セグメントの売上高は248,747千円（前年同期比11.5%減）、セグメント損失は7,533千円（前中間連結会計期間はセグメント損失3,346千円）となりました。

*イオン歯ブラシ：内蔵されたリチウム電池から10～50マイクロアンペア（10万分の10～50アンペア）の微弱電流（マイナスイオン）を流して、虫歯・歯周病・口臭の原因となる「歯垢」を効率的に取り除く歯ブラシ

（2）財政状態の概況

①資産、負債および純資産の状況

当中間連結会計期間末における、資産、負債および純資産の状況は、次のとおりです。

(ア)流動資産

流動資産は419,452千円となり、前連結会計年度末と比較して65,978千円減少しました。

主な科目の増減及び増減理由は次のとおりです。

- ・現金及び預金が110,728千円減少しました。

これは主に、中間純損失33,614千円の計上、及び有形固定資産の取得による支出29,229千円によるものであります。

(イ)固定資産

固定資産は179,611千円となり、前連結会計年度末と比較して14,642千円増加しました。

主な科目別の増減及び増減理由は次のとおりです。

- ・有形固定資産が14,518千円増加しました。

これは主に、子会社のアイオニック株式会社における歯ブラシ用金型の購入によるものであります。

(ウ)流動負債

流動負債は306,212千円となり、前連結会計年度末と比較して31,538千円増加しました。

主な科目別の増減は次のとおりです。

- ・短期借入金が50,000千円増加しました。
- ・支払手形及び買掛金20,869千円減少しました。

(エ)固定負債

固定負債は263,057千円となり、前連結会計年度末と比較して49,260千円減少しました。主な科目別の増減及び増減理由は次のとおりです。

- ・長期借入金が46,635千円減少しました。

これは、金融機関への返済が進んだことによるものであります。

(㊦)純資産

純資産は29,794千円となり、前連結会計年度末と比較して33,614千円減少しました。
これは主に、親会社株主に帰属する中間純損失31,349千円の計上によるものです。

②キャッシュ・フローの概況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比較して110,728千円減少し、71,068千円となりました。
当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、使用した資金は85,521千円となりました（前中間連結会計期間は獲得した資金27,053千円）。これは主に、売上債権が34,653千円増加したこと、税金等調整前中間純損失32,703千円の計上及び仕入債務が20,869千円減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は30,100千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金4,059千円）。これは主に、有形固定資産の取得による支出29,229千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、獲得した資金は4,893千円となりました（前中間連結会計期間は使用した資金28,651千円）。これは主に、短期借入金の増加額50,000千円及び長期借入による収入40,000千円のうち、長期借入金の返済による支出84,084千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間につきましては、期間中に新規歯科関連ビジネスの立ち上げと収益の獲得を計画しておりましたが、本年9月13日付「エキサイト社との業務提携に関するお知らせ」にて公表したとおり、本年10月1日より提携開始することとなりました。

これにより本件マウスピース歯科矯正サービスの業績への貢献は当連結会計年度の下期からとなっております。

なお、2024年3月期における通期連結業績予想につきましては、現在本件マウスピース歯科矯正サービスの影響を精査中であり、今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当中間連結会計期間においても、営業損失36,674千円、経常損失32,703千円、親会社株主に帰属する中間純損失31,349千円を計上しております。

当該状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消し又は改善すべく、以下の対応策に取り組み、安定した収益基盤の確立、コスト削減および資金調達等による、財務基盤の強化を目指してまいります。

具体的には次のとおりであります。

1. 歯科技工関連事業及びオーラルケア製品製造販売事業に次ぐ新たな収益源を獲得すべく、主に歯科クリニック向けにサービスを提供する歯科関連ビジネスの立ち上げと育成に努めてまいります。
2. 子会社化した、主にイオン歯ブラシの製造販売を行っているアイオニック株式会社との連携によって、収益基盤の拡大とシナジー効果の創出に努めてまいります。
3. 主要取引先であり、前述のアイオニック株式会社への共同出資を実施した株式会社シケンと引き続き緊密に連携し、収益拡大を図ってまいります。
4. 人件費を含めた経費の全面的見直しを実施、不採算部門の縮小等リストラチャリングを積極的に推進し、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。
5. 財務状態の改善を目指し、新たなファイナンスの検討を実施、同時に借入金等その他の資金調達についても進めてまいります。

以上の対応策を中心とした経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、計画が全て順調に推移するとは限らず、不測の事態も考えられることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

2 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当中間連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	181,797	71,068
受取手形及び売掛金	100,459	122,518
電子記録債権	21,266	33,860
商品及び製品	38,257	41,779
仕掛品	6,751	2,883
原材料及び貯蔵品	114,815	124,922
その他	22,552	28,053
貸倒引当金	△468	△5,634
流動資産合計	485,431	419,452
固定資産		
有形固定資産		
建物	226,791	227,261
減価償却累計額	△168,267	△169,765
建物(純額)	58,525	57,496
機械装置及び運搬具	399,002	396,249
減価償却累計額	△368,325	△371,344
機械装置及び運搬具(純額)	30,677	24,905
工具、器具及び備品	351,117	373,424
減価償却累計額	△339,054	△339,107
工具、器具及び備品(純額)	12,063	34,317
リース資産	43,066	37,891
減価償却累計額	△39,251	△35,012
リース資産(純額)	3,814	2,880
土地	48,352	48,352
有形固定資産合計	153,431	167,949
無形固定資産		
ソフトウェア	3,793	4,854
借地権	4,900	4,900
無形固定資産合計	8,693	9,754
投資その他の資産		
破産更生債権等	121,911	121,611
その他	2,843	1,906
貸倒引当金	△121,911	△121,611
投資その他の資産合計	2,843	1,906
固定資産合計	164,969	179,611
資産合計	650,400	599,064

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当中間連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	60,088	39,219
短期借入金	50,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	106,513	109,064
リース債務	1,834	1,517
未払金	23,664	26,662
未払法人税等	1,639	487
未払消費税等	3,899	4,490
前受金	4,800	26
賞与引当金	4,780	4,945
その他	17,453	19,798
流動負債合計	274,674	306,212
固定負債		
長期借入金	278,551	231,916
リース債務	2,354	1,647
繰延税金負債	4,515	4,132
退職給付に係る負債	24,857	23,321
資産除去債務	2,040	2,040
固定負債合計	312,317	263,057
負債合計	586,992	569,270
純資産の部		
株主資本		
資本金	67,984	67,984
資本剰余金	30,000	30,000
利益剰余金	△61,692	△93,041
株主資本合計	36,292	4,942
非支配株主持分	27,116	24,851
純資産合計	63,408	29,794
負債純資産合計	650,400	599,064

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	456,972	386,716
売上原価	315,131	269,474
売上総利益	141,841	117,241
販売費及び一般管理費	158,662	153,916
営業損失(△)	△16,821	△36,674
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	2	2
為替差益	1,280	519
作業くず売却益	860	2,495
助成金収入	8,162	30
受取賃貸料	2,597	—
雑収入	1,336	4,390
営業外収益合計	14,242	7,439
営業外費用		
支払利息	3,135	2,960
雑損失	20	507
営業外費用合計	3,156	3,468
経常損失(△)	△5,735	△32,703
特別損失		
固定資産除却損	364	—
特別損失合計	364	—
税金等調整前中間純損失(△)	△6,099	△32,703
法人税、住民税及び事業税	987	1,293
法人税等調整額	△254	△383
法人税等合計	732	910
中間純損失(△)	△6,831	△33,614
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△203	△2,264
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△6,627	△31,349

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
中間純損失(△)	△6,831	△33,614
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	219	—
その他の包括利益合計	219	—
中間包括利益	△6,612	△33,614
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△6,409	△31,349
非支配株主に係る中間包括利益	△203	△2,264

(3) 中間連結株主資本等変動計算書

前中間連結会計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	67,984	30,000	△34,565	63,419
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)			△6,627	△6,627
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△6,627	△6,627
当中間期末残高	67,984	30,000	△41,193	56,791

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	3,724	3,724	26,506	93,650
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)				△6,627
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	219	219	△203	15
当中間期変動額合計	219	219	△203	△6,612
当中間期末残高	3,943	3,943	26,303	87,037

当中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	67,984	30,000	△61,692	36,292
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)			△31,349	△31,349
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)				
当中間期変動額合計	—	—	△31,349	△31,349
当中間期末残高	67,984	30,000	△93,041	4,942

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	—	—	27,116	63,408
当中間期変動額				
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)				△31,349
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)			△2,264	△2,264
当中間期変動額合計	—	—	△2,264	△33,614
当中間期末残高	—	—	24,851	29,794

(4) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失(△)	△6,099	△32,703
減価償却費	15,473	15,933
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3,650	4,866
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	150	△1,535
受取利息及び受取配当金	△4	△3
助成金収入	△8,162	△30
支払利息	3,135	2,960
固定資産除却損	364	—
売上債権の増減額(△は増加)	40,840	△34,653
棚卸資産の増減額(△は増加)	8,206	△9,646
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,753	△20,869
その他	△24,405	△5,413
小計	23,093	△81,094
利息及び配当金の受取額	4	3
助成金の受取額	7,439	972
利息の支払額	△2,314	△2,957
法人税等の支払額	△1,168	△2,446
営業活動によるキャッシュ・フロー	27,053	△85,521
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,439	△29,229
無形固定資産の取得による支出	—	△1,769
その他	380	899
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,059	△30,100
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	50,000
長期借入れによる収入	—	40,000
長期借入金の返済による支出	△27,629	△84,084
リース債務の返済による支出	△1,022	△1,022
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,651	4,893
現金及び現金同等物に係る換算差額	203	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,454	△110,728
現金及び現金同等物の期首残高	180,110	181,797
現金及び現金同等物の中間期末残高	174,656	71,068

(5) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、重要な営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、また、当中間連結会計期間においても、営業損失36,674千円、経常損失32,703千円、親会社株主に帰属する中間純損失31,349千円を計上しております。

当該状況により継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループは当該状況を解消し又は改善すべく、以下の対応策に取り組み、安定した収益基盤の確立、コスト削減および資金調達等による、財務基盤の強化を目指してまいります。

具体的には次のとおりであります。

1. 歯科技工関連事業及びオーラルケア製品製造販売事業に次ぐ新たな収益源を獲得すべく、主に歯科クリニック向けにサービスを提供する歯科関連ビジネスの立ち上げと育成に努めてまいります。
2. 子会社化した、主にイオン歯ブラシの製造販売を行っているアイオニック株式会社との連携によって、収益基盤の拡大とシナジー効果の創出に努めてまいります。
3. 主要取引先であり、前述のアイオニック株式会社への共同出資を実施した株式会社シケンと引き続き緊密に連携し、収益拡大を図ってまいります。
4. 人件費を含めた経費の全面的見直しを実施、不採算部門の縮小等リストラクチャリングを積極的に推進し、キャッシュ・フローの最大化を目指してまいります。
5. 財務状態の改善を目指し、新たなファイナンスの検討を実施、同時に借入金等その他の資金調達についても進めてまいります。

以上の対応策を中心とした経営の効率化を図り、安定的な収益基盤を構築すべく努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上であり、計画が全て順調に推移するとは限らず、不測の事態も考えられることから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「歯科技工関連事業」及び「オーラルケア製品製造販売事業」の2つを報告セグメントとしております。「歯科技工関連事業」は提携歯科技工所及び歯科クリニックから依頼される歯科技工物の製作受注を中心に、歯科技工関連商品（歯科技工材料、歯科技工機械）の販売も実施しております。「オーラルケア製品製造販売事業」は、イオン歯ブラシの製造販売を中心に、歯磨剤等その他オーラルケア製品の製造販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報及び収益の分解情報

前中間連結会計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額
	歯科技工関連 事業	オーラルケア製 品製造販売事業			
売上高					
歯科技工	127,941	—	127,941	—	127,941
歯科技工商品・製品販売	27,354	—	27,354	—	27,354
歯科関連商品販売	20,508	—	20,508	—	20,508
オーラルケア製品製造販売	—	281,168	281,168	—	281,168
顧客との契約から					
生じる収益	175,804	281,168	456,972	—	456,972
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	175,804	281,168	456,972	—	456,972
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,557	—	6,557	△6,557	—
合計	182,361	281,168	463,529	△6,557	456,972
セグメント利益又は セグメント損失(△)	1,309	△3,346	△2,036	△14,784	△16,821

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1)セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額△6,557千円は、セグメント間取引消去であります。

(2)セグメント利益又はセグメント損失の調整額△14,784千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当中間連結会計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		計	調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額
	歯科技工関連 事業	オーラルケア製 品製造販売事業			
売上高					
歯科技工	96,314	—	96,314	—	96,314
歯科技工商品・製品販売	26,687	—	26,687	—	26,687
歯科関連商品販売	14,967	—	14,967	—	14,967
オーラルケア製品製造販売	—	248,747	248,747	—	248,747
顧客との契約から					
生じる収益	137,968	248,747	386,716	—	386,716
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	137,968	248,747	386,716	—	386,716
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
合計	137,968	248,747	386,716	—	386,716
セグメント損失（△）	△14,348	△7,533	△21,882	△14,792	△36,674

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

セグメント損失の調整額△14,792千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント損失は、中間連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。